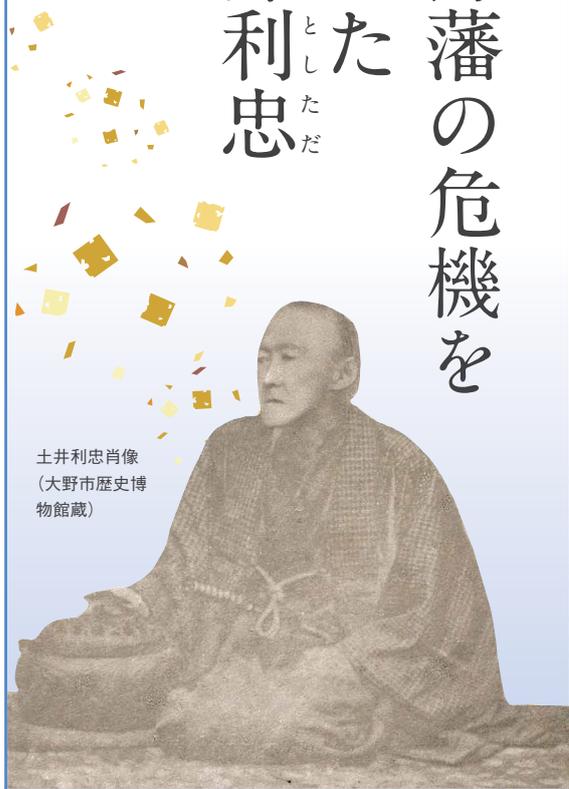


## 大野藩の危機を

救った

どいとしただ  
土井利忠土井利忠肖像  
(大野市歴史博物館蔵)

**幕** 末大野藩の名君として知られる土井利忠。大野藩土井家7代目の藩主であり、倭約や地場産業奨励などにより大野藩の財政再建を図ったほか、人材登用、藩校明倫館や洋学館の設置、軍制改革、洋式帆船の「大野丸」の建造、サハリン開拓などを行った人物でした。

利忠が藩主となった頃は、藩は莫大な借金を抱えており、天保4(1833)年には9万6千両の借金がありました。1両を10万円で計算すると96億円にもなります。当時の大野藩の全収納高が1万6千両に

も係わらず借金の利息は年9千両といわれており、収入の半分以上が利息に消えていく状態だったのです。

利忠はこの状況を打開するため、天保13(1842)年に「更始の令」を出し、藩政改革に乗り出します。その内容の一部は次のとおりです。

「君臣上下は一体である、お前たち家臣があるから自分も大名たりえ、土井家が続くからお前たちもやっていけるのである、この所を深く理解してほしい。財政難から政務が欠け、不正も生じ、正直者が埋もれているようでもある。政治向きはもちろん私自身の身の処し方に至る

まで、気付いたことは何でも申し出てほしい。他見他聞を憚ると思えば封書で差し出してもいいし、直接言いたいことがあれば小姓頭まで申し出れば何時でも会って話を聞こう。お前たち家臣の「真忠の精力」に頼る以外土井家にも大野藩にも未来はないのだ、一同の者、くれぐれも頼んだぞ。」

この「更始の令」は、利忠自ら生活を切り詰めて借金を返し、藩の財政を立て直そうという決意を表したものです。この令の読み上げを聞いた藩士一同は、利忠の思いを受け感動の涙を流したと伝わっています。

これを機に、藩主自ら節制に努めたほか、前出のとおり次々と先進的な政策を行っていきました。改革は成果を上げ、洋式帆船の大野丸を建造できるほどの財政再建を成し遂げます。大野藩をもう一度やり直す(更に始める)という気概で取り組んだ試みが見事に実を結んだのです。

利忠は明治元(1868)年に58歳で亡くなりました。大野城のふもとには、その遺徳を偲び、利忠を祀る「柳廼社」が建立されています。大野を救った名君として今も人々に顕彰されているのです。



土井利忠をまつる「柳廼社」

関連史料・ゆかりの地

大野市歴史博物館



昭和61(1986)年に「大野市歴史民俗資料館」として設立され、大野市の縄文時代から近代までの歴史資料を収集・保存・展示しています。白山信仰や中世の仏教、岩佐又兵衛(いわさまたへゑ)絵画の資料とともに、大野藩土井家7代藩主、土井利忠以降の藩政資料を多く展示しています。

【住所】大野市天神町2-4 (JR越前大野駅より徒歩10分)

参考資料等

大野市教育委員会ほか編『大野のあゆみ改訂版』大野市、大野市史編さん委員会編『大野市史』史料総括編 大野市、大野市教育会編『福井県大野郡誌』下編 河原哲郎『歴史と史跡大野』大野市、『図説福井県史』福井県、坂田玉子『越前大野・今はむかしのものがたり』

執筆・協力

大野市商工観光振興課